

福井工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	環境都市計画論
科目基礎情報					
科目番号	0116		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	環境都市工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『都市計画』萩島哲 (朝倉書店)				
担当教員	江本 晃美				
到達目標					
歴史的な環境都市の概念やその変遷, 都市計画の過程や手続き, 方法論などについて, 十分に理解し, 他者に説明できるようになるため以下の点を到達目標とする.					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境都市の持続可能性について説明できるようになること.</li> <li>2. 国内外の実践例を通じて, 環境都市の共生性に関して説明できるようになること.</li> <li>3. 環境都市構築のための制度と手続きについて, そのプロセスを説明できるようになること.</li> <li>4. 環境都市のデザインに際し, 機能性, 安全性, 経済性, 資源・環境問題や快適性を考慮できること.</li> <li>5. 環境都市を, その要素や尺度に基づき図式化し, その問題点を示し, 解決法に関して自らの考えを専門基礎 知識・技術に即して整理し提示できるようになること. 特に, 簡単な数理的モデルを使いこなせること.</li> <li>6. 自分の住む地区の現況, 計画の内容と意義, 問題点などを把握し, 解決案を企画する能力を身につけること.</li> </ol>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安	
環境都市の持続可能性	環境都市について理解し, 持続可能性を高めるための施策を提案することができる	都市の持続可能性について説明でき, 都市計画の制度やまちづくりのプロセスを説明し, 都市調査によるデータを基に分析・考察できる	都市計画の制度や成り立ちを説明し, まちづくりプロセスを理解している	都市計画の枠組みと持続可能性について専門用語を用いて説明することができない	
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 RB2					
教育方法等					
概要	生命や人間の特性や考え方にに基づき, 環境・都市に関する計画を立案・遂行するために必要な都市の概念, 環境・都市の考え方や計画論の歴史そして環境都市計画の理念, 制度や方法論, 世界諸都市の現状に基礎的な知識を修得する. 具体的に空間論, 経済性等の観念を通じて技術者・研究者の倫理と社会性など, 社会的規範を理解した技術者としての知識と技術を修得する.				
授業の進め方・方法	環境・都市の概念や歴史, 計画論や計画に関する構成要素と手法の組合せ, 国内外の先進事例などの資料を提示し, 環境と都市の計画の基盤となる総合的な観点について講義を行う. 合わせて, 実践課題として学生自身による地域分析レポートを課し, 持続可能な社会づくりに取り組める都市・地域の観察力を養い自主研究を促す.				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバスの説明, 都市の概念	都市とは何かを理解する	
		2週	都市計画の理念と役割	都市計画の理念と役割を理解する	
		3週	都市の計画と手順	都市の計画と手順を理解する	
		4週	日本を含むアジア圏における都市デザイン	日本を含むアジア圏における都市デザインを事例から理解する	
		5週	ヨーロッパにおける都市デザイン	ヨーロッパにおける都市デザインを事例から理解する	
		6週	中東からアフリカの都市デザイン	中東からアフリカの都市デザインを事例から理解する	
		7週	ヨーロッパにおける都市デザイン2	ヨーロッパにおける都市デザインについて比較し分析する	
		8週	産業革命と都市計画の進展	産業革命と都市計画の進展について理解する	
	2ndQ	9週	中間試験	中間試験	
		10週	試験の返却と解説, 近代都市計画論の展開	近代都市計画論の展開について理解する	
		11週	都市の機能配置と土地利用計画	都市の機能配置と土地利用計画について理解する	
		12週	土地利用予測と計画	土地利用予測と計画について事例と手法を理解する	
		13週	国土利用とマスタープラン, 実現化への手続き	国土利用とマスタープラン, 実現化への手続きを理解する	
		14週	都市計画規制と建築規制	都市計画規制と建築規制を関連付けて理解する	
		15週	都市計画の決定手続きと手法, 農業政策 地域分析課題	都市計画の決定手続きと手法, 農業政策を理解する	
		16週	人口の適性規模と適性密度, その維持と扶養 (安全保障)	人口の適性規模と適性密度を理解する	
後期	3rdQ	1週	都市調査の実践	都市調査の実践を通して理解度を高める	
		2週	まちづくり手法と事例	まちづくり手法と事例を理解し周囲を観察する	
		3週	地区単位の参加・連携まちづくりの仕組みと事例	地区単位の参加・連携まちづくりの仕組みを理解する	
		4週	景観の概念と景観デザイン, 景観形成のための枠組みと景観法 プロジェクト成果の発表	景観の概念と景観デザイン, 景観形成のための枠組みと景観法を理解する	
		5週	文化的景観の手続きとまちづくり手法	文化的景観の手続きとまちづくり手法を理解する	
		6週	都市の緑地・オープンスペース・公園とまちづくり	都市の緑地・オープンスペース・公園とまちづくりの手法を理解する	

4thQ	7週	中間試験	中間試験
	8週	試験の返却と解説、歩行者空間・パブリックスペースの計画	歩行者空間・パブリックスペースの計画について理解する
	9週	地区別の歩行者空間とセミパブリック空間のコントロール	地区別の歩行者空間とセミパブリック空間のコントロールの手法を理解する
	10週	都市の防災計画の考え方と手法	都市の防災計画の考え方と手法を理解する
	11週	地域防災とまちづくりの実践	地域防災とまちづくりの実践例を理解する
	12週	都市のデータ化とモデル化の概念	都市のデータ化とモデル化の概念を理解する
	13週	支援システムの構築と事例	支援システムの構築と事例を理解する
	14週	圏域性と社会性を踏まえた地域課題と環境都市構築の手続き	圏域性と社会性を踏まえた地域課題と環境都市構築の手続きを理解する
	15週	支援システムの構築と事例	支援システムの構築と事例を理解する
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野 計画	国土と地域の定義を説明できる。	4	
			日本、世界における古代、中世および現代の都市計画の思想および理念と実際について、説明できる。	4	
			都市計画法と都市計画関連法の概要について、説明できる。	4	
			土地利用計画と交通計画について、説明できる。	4	
			総合計画とマスタープランについて、説明できる。	4	
			都市計画区域の区域区分と用途地域について、説明できる。	4	
			交通流調査(交通量調査、速度調査)、交通流動調査(パーソントリップ調査、自動車OD調査)について、説明できる。	4	
			交通需要予測(4段階推定)について、説明できる。	4	
			緑化と環境整備(緑の基本計画)について、説明できる。	4	
			風景、景観と景観要素について、説明できる。	4	
			都市の防災構造化を説明できる。	4	
			土地区画整理事業を説明できる。	4	
			市街地開発・再開発事業を説明できる。	4	
			交通流、交通量の特性、交通容量について、説明できる。	4	
			計画の意義と計画学の考え方を説明できる。	4	
			二項分布、ポアソン分布、正規分布(和・差の分布)、ガンベル分布、同時確率密度関数を説明できる。	4	
重回帰分析を説明できる。	4				
線形計画法(図解法、シンプレックス法)を説明できる。	4				
費用便益分析について考え方を説明でき、これに関する計算ができる。	4				

評価割合

	試験	プロジェクト課題	プレゼン	相互評価	合計
総合評価割合	70	20	5	5	100
基礎的能力	20	0	0	0	20
専門的能力	40	0	0	0	40
総合的な分析力	10	10	0	5	25
調査能力	0	10	0	0	10
プレゼン表現力	0	0	5	0	5
	0	0	0	0	0